



小島たかしの記録

3回目の一般質問に立つ

9月に行われた定例県議会では、議員就任以来3回目の一般質問に立ちました。質問の内容は(1)知事の政治姿勢(2)産業政策について(3)政令市との連携について(4)観光振興について、の4点が中心となりました。特に(3)政令市との連携についての中で「新潟市のまちづくり」、殊に「中心市街地の活性化」「公共交通システムの導入」について県知事の考えを聞いています。県議会と並行して開催された新潟市議会でも、吉田孝志市議が連動して、新潟市への公共交通システム導入について

質問しました。抜粋をご紹介します。また、同じ時期に新潟商工会議所が「公共交通システム」について県、市に要望を提出しています。



写真は自由民主党新潟県連のホームページから

○ 9月18日「県議会での一般質問(小島vs知事)」抜粋(下線は小島たかし後援会事務所)

質問：軌道系の公共交通を導入し、道路を自転車、歩行者に開放し、新たなまちづくり、都市づくりを県都新潟市にも活かすべきではないか。

答弁：これまで多くの都市が、自動車に過度に依存した都市構造であったのに対して、軌道系など公共交通を活用した歩いて暮らせる都市づくりが、まちに生活利便性と向上と賑わいをもたらし、環境負荷の面からも望ましい方向性と考える。県としては、政令市である新潟市の意向を最大限尊重し、その意向が実現できるように対応を進めていく。

質問：新潟市内での軌道系の交通システムの導入に関して具体的にどう対応するか

答弁：軌道系を含めた市内の都市交通政策については、政令市である新潟市が決定すべきこと考える。県としては、新潟市が持つ県内外との交通結節機能に着目し、広域的な観点から、新潟駅や新潟空港といった重要施設間の交通の利便性向上について市と協力して取り組んでいきたい。



<参考事例> 富山市のライトレールトランジット 撮影：亀田郷土地改良区

○ 9月17日「新潟市議会での一般質問(吉田孝志vs市長)」抜粋(下線は小島たかし後援会事務所)

質問：目指すべき「まちのすがた」に関して、集約型都市の「まちづくりの装置」公共交通の整備に市長の強いリーダーシップを望む。

答弁：日本海政令市にふさわしい拠点性の強化や環境にやさしいまちづくり、安心・快適な暮らしを支える公共交通の充実が重要な都市政策であると認識している。このことから、現在、人と環境にやさしい交通環境の実現を目指し、オムニバスタウン事業などにより既存の公共交通の利便性向上に向けた取り組みを進めるとともに、将来の新たな交通システムを見据えながら公共交通の利用促進と機運醸成に努めている。公共交通は都市の重要な装置であることから、単に採算面だけではなく、市民の移動の確保や長寿社会、地球温暖化への対応、また将来のまちづくりの方向など総合的な観点から公共交通の強化に積極的に取り組んでいく。





総務文教委員会の副委員長に就任

9月定例議会より、総務文教委員会に所属することになり副委員長を務めることになりました。特別委員会は地域活性化・総合交通対策特別委員会に所

属しました。なお、自民党新潟県連では、党紀副委員長に就任しています。総務文教委員会では、8月25日から26日かけて県内行政視察が行われました。文教視察として新潟国際情報大学を訪問し、国体関連のスポーツ施設の塩沢のスキージャンプ台と魚沼市のバレーボール会場を視察しました。



新潟国際情報大学にて



石内丸山ジャンプにて

国交省神田調整官を招いて研究会を開催

9月26日に国土交通省都市・地域整備局街路交通施設課神田昌幸氏を招いて、新潟交通問題研究会主催の「公共交通のあり方」研究会を開催しました。さる5月のシンポジウムに続く「新潟市への公共交

通システム導入の実現」に向けて、神田氏の基調講演に引き続いて、参加者で意見交換を行いました。5月以来、様々な情報が集積されつつあります。必要な方は是非ご連絡ください。また、今後ともこの課題について研究を続けていく予定です。



講師紹介の様子 クロスパルにて



神田 昌幸 国土交通省 都市・地域整備局
街路交通施設課 街路事業調整官